令和５年度事業計画

我が国の65歳以上の人口は、3,624万5千人(令和4年9月1日現在確定値)で総人口に占める割合は29.0%と過去最高となりました。

詳しくみてみますと、70歳以上人口は2,868万人(総人口の23.0%)、75歳以上人口は1,930万人(同15.5%)、80歳以上人口は1,231万人(同9.9%)となり、75歳以上の割合が初めて15%を超えました。これは、いわゆる「団塊の世代」(1947年～1949年生まれ)が令和4年から75歳を迎え始めたことによると考えられます。

甲賀市においても65歳以上の人口が令和5年2月末で25,626人、総人口に占める割合は28.8%となり、前年同期と比べると114人の増加で、過去最高を更新しています。

こうした中、甲賀市シルバー人材センターは人生 100 年時代を見据え、この新しい時代のシニア生活にフィットした就業機会の創出や生きがい、居場所づくりに積極的に取り組み、「働く」「学ぶ」「楽しむ」「参画する」といった多方面にわたる事業活動を展開しているところです。シルバー事業に参加することにより追加的収入も得られ、また、健康保持効果を高め、介護予防の推進や医療費など社会保障費が削減できる側面もあり、経済面、健康面等合わせ、さらに重要性が見直されています。

ここ数年は新型コロナウィルス感染症による影響や「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」の改正、さらに 10 月から始まるインボイス制度(適格請求書等保存方式)やフリーランス新法制定に関する対応などシルバー事業を取り巻く環境は大きく変化しており、今後を注視しながら事業推進する状況となっています。

しかしながら、シルバー人材センターには、急増する高齢者の社会参加の受け皿としての機能及び、地域社会の支え手、担い手としての役割を果たしていくことが強く求められています。

このようなことから地域社会にシルバー事業の取り組みや重要性、理念を積極的に周知し、超高齢化社会の到来に備えた環境づくり、いくつになっても活躍できる社会づくりを推し進めていかなければなりません。

令和5年度においても5月に位置付けが2類から5類に移行される新型コロナウィルス感染症の動向にも注視しながらＳＤＧｓ(持続可能な開発目標)の推進にも配慮しつつ、女性の活躍を重点とした会員拡大を核に据えて、新しい生活様式に対応した多様な就業機会の開拓や事業の実施、講習会や講座の開催、同好会、ボランティア活動など積極的な事業展開を推し進め、地域社会で一層輝く存在となるよう努めてまいりたいと思います。特にデジタル社会の到来を念頭に置いて、デジタル関連の就業機会の確保に加えて、スマホ等を利用した業務連絡やデジタル技術を活用した業務の効率化、会員のデジタルリテラシー(デジタル技術を理解し活用する能力)の向上に取り組み、年齢にかかわりなく活躍できることができる「生涯現役社会」の実現を推進してまいります。

【事業実施計画】

１．就業機会等の確保・提供

１）いくつになっても活躍できる就業機会の確保、創出に努める。また、就業することが困難になった会員の居場所としての機能を果たすことも極めて重要となることから、ボランティア活動やカルチャー講座、同好会等就業以外の分野でも長く活躍できる環境整備を図る。

２）女性会員の多様な就業ニーズに対応した就業先開拓に努める。

３）デジタル技術を活用できる就業機会の開拓を推進する。

４）登録会員のデータベース(資格・技能・経験等)を活用した就業機会の確保に努める。

５）人手不足分野や現役世代を支える分野を対象にした派遣就業の積極的な拡大を図る。

６）市や関係団体等連携を図り、高齢者宅の家事援助サービスや空家・空地の対策に積極的に取り組むことにより就業機会の確保に努める。

○目標契約金額　　3 億 7,800 万円（派遣業務含む）

２．会員の拡大

１）ハローワーク甲賀でのセミナーの開催や相談業務を通じてシルバーの事業活動に賛同し、健康で働く意欲のある会員の確保に努める。

２）女性会員の積極的な事業参画がシルバー事業の活性化に繋がると考えることから各種女性向け講座、講習会と連携しながら積極的な入会推進を図る。

３）いくつになっても活躍できる就業機会の創出に努め、退会抑制を図る。

４）シルバーフレンドリーショップ制度(会員優待割引)の協力店拡大により入会推進、退会抑制を図る。

５）会員加入推進期間を設け、会員一人に一人を目標に「会員紹介カード」を活用して入会推進に取り組む。

６）広報紙「シルバーこうか」や会報紙「シルバーだより」、ホームページ、ＳＮＳ(パソコンや携帯電話等情報交換ができる方法)を利用し活動状況や就業情報等を公開するなど、周知に力を入れ入会促進に繋げる。

７）ＷＥＢ入会システムの活用により、さらなる会員拡大を図る。

○目標会員数　　1,248 人

３．安全・適正就業の推進

１）安全チェックシートの活用や就業前ミーティングの徹底及び就業パトロール強化による事故の未然防止に努め、発生事故については安全・適正就業委員を中心に事故現場の検証を実施して再発防止策を検討、その結果をこうか安全ニュース等で広く会員に周知する。

２）会員が安心して就労できるよう認知機能 AI アプリを導入し、健康管理に努めるとともに、運転業務従事者には運転免許更新時認知機能検査体験講習を実施して安全運転に繋げる。

３）シルバーだより、こうか安全ニュースを最大限活用して会員個々の安全意識向上に努める。

４）シルバー人材センターの適正就業ガイドラインに基づき、適正なシルバー事業の推進を図る。

５）安全講習、研修への積極的な参加により役職員をはじめ、各地域班長や会員のリスクマネジメント向上に努める。

４．普及啓発の推進

１）年 2 回発行の広報「シルバーこうか」や毎月発行の「シルバーだより」の内容をより充実させ、イメージの転換、向上を図る。

２）各施設をお借りして開催するシルバーカルチャー講座の作品展や定期的に開催するシルバーマルシェを通じて積極的に普及啓発に努める。

３）広報「シルバーこうか」やホームページ、フェイスブックを活用してセンターの活動状況等の積極的な情報発信に努める。

５．組織の充実強化

１）「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもと、会員による事業参画を積極的に推進するとともに理事会、各部会、委員会、地域班等の活性化を図り、組織の充実強化に努める。

２）女性会員ならではのネットワークを通じた活動により、シルバー組織の活性化や女性会員の拡大を図る。

３）県連合会や他の拠点センターとの連携や情報収集を緊密に行い、事業実施方法の見直し等の検討を図り、効率化に努める。

４）地域班、職群班、就業グループ班と連携を図り、見積や現場管理など会員主体で実施することにより働きがいのある組織運営を図る。

５）「インボイス制度(適格請求書等保存方式)」やフリーランス新法制定への対応はセンター運営に及ぼす影響が極めて大きいことから、安定的な事業運営のために引き続き各種情報収集に努め、適切な対応を図る。

６．技能講習会等の実施

発注者からの多様なニーズに対応するため各部会や支部で開催される講習会、研修会等を活用し人材の育成及び技能の習得に努める。

特に高年齢者のデジタル社会への対応が急務の課題となっていることから、昨年に引き続き、地域高年齢者に対するスマホ講習や相談会等の実施によりデジタルリテラシーの向上に努める。

７．福祉・家事援助（介護支援）サービス事業

高齢者・障がい者が住み慣れた地域や住まい（家）で安心して日常生活が送れるよう市が実施する「高齢者障がい者安心生活支援事業」と連携を図り、家事ができない方や介護保険では適用されない短時間の軽易な作業（電球交換、ゴミ出し、買物、清掃、外出時の付き添い、公共料金の支払いなど）の就業支援を積極的に行う。

８．独自事業等への支援

会員の持つ豊富な知識・経験・技能・特技を活かした自主的な活動が展開できるよう独自で提案された事業や会員が講師となり開催するカルチャー講座やシニアマイスター事業の支援を積極的に実施する。

また、新たにデジタル機器（タブレット）を活用した運転免許更新時認知機能検査体験講習をスタートし、就業機会の拡大に繋がるよう支援する。

９．労働者派遣事業及び職業紹介事業の実施

高齢者の多様な就業ニーズに応えていくため、基幹業務である請負就業に加えて、シルバー派遣や職業紹介による働き方を積極的に展開する。それぞれの就業においては「臨時的かつ短期的な就業」又は「その他の軽易な業務に係る就業」を基本としつつ、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」第 39 条に基づく特例措置を活用した業務拡大を推進する。

10．地域社会貢献活動の実施

全国シルバー人材センター普及啓発月間中の10月15日（日）～21日（土）の「滋賀県シルバー環境美化週間」において、組織を挙げて市内一斉清掃ボランティア活動を実施する。また、「歩いて健康！ゴミ拾いで地域貢献！」を合言葉に、シルバー事業の啓発を兼ねて各地域で清掃ボランティアウォーキングを実施する。